

県霞ヶ浦環境科学センター・小幡和男さん(中央)らによる植物調査=5月23日



つくば万博の森には約3万本のヒノキが植林され、育っている=4月22日、いづれもつくば市、松村北斗撮影



つくば万博の森 自然共生サイトに

豊かな生態系 環境省が認定

民間などの取り組みで豊かな生態系が保全されている区域を国が認定する「自然共生サイト」に、朝日新聞社が設立した公益財団法人森林文化協会が管理する「つくば万博の森」(つくば市)が新たに認定されることが決まった。

本社など、募金もとに植林・管理



環境省は9月下旬、24年度前期分としてつくば万博の森を含む69カ所を新たに認定すると発表した。これにより自然共生サイトは計44都道府県253カ所となる。

つくば万博の森は筑波山の南に位置する宝鏡山(標高461m)にある国有林で、広さ9・87ha(つくば市が管理する遊歩道部分を含む)。マツクイムシ被害を受けたマツ林の森林再生をめざし、朝日新聞社と協会が全国約4万2千人からの募金をもとに、1985年から87年にかけてヒノキなど約3万本と、宝鏡山に多いヤマザクラなどの広葉樹を植えた。これまで約40年にわたり、協会が間伐や草刈り



つくば万博の森で撮影されたツルシ2023年12月20日

県レッドリスト(絶滅危惧Ⅱ類)のリンボク(中央)=2023年11月24日



県レッドリストのリンボクなど動植物確認

などを続けている。林内にある広場や遊歩道はハイカーら多くの人が利用している。

協会は昨年11月から、動植物の専門家の協力、助言を受けながら植物、野鳥、地上哺乳類の生息状況を調査。イノシシ、ニホンノウサギ、タヌキ、アナグマなどの哺乳類や、季節に応じた多様な鳥類、県レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類のリンボクをはじめ300種以上の植物が確認された。

こうした結果をもとに関東森林管理局、つくば市の同意を得て、4月に自然共生サイトの認定を申請。環境省の専門家をつくる委員会の審査により、人工林や農地といった人の手が入った「里地里山」に特徴的な生態系があることや、希少動植物が生育していることから、認定が決まった。(松村北斗)